



「対話」が広がるまちへ ————— 対話による市民協働ファシリテーター講座を開催

地域のさまざまな人が力を合わせて課題解決に取り組むためには、立場や考え方の違いを越えて「対話」することが大切です。本講座は、「対話の場」をつくる視点をもってサポートできる人＝ファシリテーターを養成することを目的に開催しました。ワークショップを通して、意見を引き出す工夫や合意形成の進め方、心地よい対話の場づくりを実践的に学びました。受講者同士の交流からも新しいつながりが生まれ、地域の中に“対話のできる関係”を育む一歩となりました。



第1回目 7月27日(日)

「対話」ってなに?「まちづくり」のイメージは?「ファシリテーション(ファシリテーター)」って何?など、参加者のもつイメージを共有しながら、「対話の場」を体験しました。



イメージは人それぞれ。「正しさ」「正解」「結論」を求めるのではなく、お互いの「意見」「問いかけ」「アイデア」を場のなかで共有し、深め、広げ、展開しながら探究していく行為が「対話」です。

「市民」+「協働」+「ファシリテーター」とは

市民が協働することを促進する人＝活動に関わるすべての人が、1つの目的や目標に向かってそれぞれの立場で、それぞれの特性を活かして取り組むことを支援していく人々です。その際には、グループの中での相互作用や信頼関係の構築を促し、その上で、グループの目標達成を支援していくことを大切にします。



講師
草鄉 孝好

関西大学社会学部教員

地域に「市民協働ファシリテーター」の活躍の場を!

講師
草郷 孝好
関西大学社会学部教員



学校の学級会や職場の会議、自治会の集まりなど、私たちはさまざまな場で人と話す機会があります。けれども、「お互いの意見を出し合った」という実感がなく、誰かの案にお墨付きを与えるだけで終わっことはないでしょうか。「自分の意見を聞いてほしい」と思っても、その機会が得られないこともあります。多様な経験をもつ人々の意見を活かすことができれば、より良いアイデアが生まれやすくなります。そのために大切なのが「場づくり」と「対話」です。

市民協働ファシリテーターは、安心して意見を出し合える環境を整え、参加者同士の対話を支えます。地域にファシリテーターの活躍の場が広がれば、学校や職場、地域での話し合いはもっと楽しく、新たな気づきやつながりが生まれるはずです。関心のある方は、ぜひ本講座に参加してみてください！

第2回目 10月5日(日)

第1回目受講後から、それぞれの場所でファシリテーターとしてどんなことにチャレンジをしたか共有し、お互いのチャレンジからの学びもたくさんありました。



コンセンサス(全員の合意)による集団の意思決定は、1つ1つについて各メンバーが合意して、はじめてグループとしての決定となります。コンセンサスはもちろん容易ではありません。少数意見も考え方の幅を広げてくれるものとして尊重し、メンバーの感情やグループの動きにも十分に配慮しながら意見を促します。



参加者からのコメント(一部抜粋)です

グループワークの参加者から発せられた「私の意見ではなかったけれど、対話を通じて決まった結果に満足しています」という感想に、あらためて集団で意思を決定するときの対話の重要性を実感しました。



他人の意見と同様に自分の意見も大切にすることを学びました。



私たちは「対話を中心としたまちづくり」に取組んでいます。ただ、「対話」は常に市長が先導するものではありません。むしろ、市民社会の中に「対話」が根付くことで、芦屋市の至るところで対話が溢れる状態こそ、私たちの目指すまちです。今回の講座では、多くの対話ファシリテーターが誕生しました。皆さんに地域社会で活躍いただけること、とても楽しめます！

高島市長からのコメントです

場をデザインするということ

何より大切なことは「この場は何のためにあるのか?」を明らかにすることです。

● 場の目的と目標を定める。

- ✓ 目的(ねらい) : 何のためにあるのか?
- ✓ 目標(ゴール) : 場が終わった時に達成されること何か? (終了時に評価できるもの)

目的/目標があり、そのうえで、「どうやって、それを達成するか?」を考えることからデザインが始まります。

最後に受講者一人ずつが、これから何にチャレンジするか?市民協働ファシリテーターとしてのビジョンや想いについて発表をし、2回の講座を終了しました。今後、参加者が深めたい・語りたいことを持ち寄って自由に語る対話の場を行います。様々な場所で活躍できるよう、さらにバックアップをしてまいります！



講師
稲葉 久之

フリーランス・
ファシリテーター

理解と共感を生み出す「対話の場」を地域社会で！

自分の言葉が他の参加者に新たな視点を与え、他の参加者の言葉に自分も新たな気づきをもらう。一方的な講義ではなく参加者同士の間で交わされる「対話」が、2日間の講座をより学び多き場にしてくれました。対立した議論ではなく理解と共感を生み出す対話が、組織や地域社会のなかで求められています。対話の場で大切にされる傾聴やお互いへの尊重、結論だけでなくその場に生じるプロセスにも目を向けるファシリテーターのありようを深めた体験が、これから他の他者やグループとのかかわりかたへのヒントになると幸いです。お一人おひとりが最後に宣言された「次の一步」を応援しています。対話のファシリテーターに関心を持たれた方は、ぜひリードあしやが開かれる対話の場にもご参加ください。新たな仲間が増えていくことを願っています。

当日の様子は、YouTube動画からご覧いただけます▶

